

ガタ, マルダイコクコガネ.

地域: 鹿児島県徳之島の3町(徳之島町, 天城町, 伊仙町).

出典: 徳之島希少野生動物植物(追加指定)について: <http://www.tokunoshima-town.org/kikakuka/kanko/shizenisan/140124tsuikashitei.html> (2014.2.26 閲覧)

それより前の指定, および甲虫以外の昆虫についても確認をしてください.

自然保護委員会では, 各自治体による指定の動きを可能な限り把握したいと思います. 指定前, 指定後を問わず, 情報がありましたらお知らせ下さい.

(自然保護委員会 林 成多)



大桃定洋・福富宏和共著
「日本産タマムシ大図鑑」
むし社

2013年9月20日発行

206ページ

定価 18,000円

現在までに知られている日本産タマムシ科甲虫の30属216種を網羅した大著である. 奇しくも「日本産オサムシ図説」(昆虫文献六本脚)と同日に出版され, 日本産の一つの分類群を扱った書籍としては非常に重要かつ歴史的な一冊となった.

とにかく本書は写真を見るだけでも楽しく, 心が洗われる図鑑である. 最初に目を惹くのは標本図版の素晴らしさであり, 本書全体を通じて非の打ちどころがない仕上がりとなっている(一部, もう少し展足を頑張ってほしかったが). 光沢のある種はその点が程良く表現され, 点刻の粗い種や毛深い種ではその特徴を余すことなく描寫している. 写真技術の発達した今でも, これは技術の外にある美的感覚の問われる作業であり, 決して教科書通りにできることではないだろう. 同様に最初の35ページを費やした生態写真集も目を楽しませるに十分なもので, 魅力的なタマムシの生態の数々が切り取られている. これらは著者らの努力というより, 撮影者(およびきれいに展足した標本提供者)の工夫と労力の賜物であるが, 写真は図鑑の命であるので, あえて最初に述べておきたい.

各種の解説に関しては, 形態的特徴, 生態情報, 寄主植物, 分布, 珍品度, そして図版に使われた標本の情報が掲載されており, 同定の困難な小型種からなる属に関しては, 最初に検索表も付記されている. 早速, 職場の標本を調べてみたが, 形態の解説は簡潔かつ要点をついたもので, 著者らはさすがこの道の専門家だと唸らせられた. とくに同定の難しいナガタマムシ属に関しては, 図版

に頭部と前胸の横向き拡大図が付けられ, 大写しの全形とともに, 同定の重要な参考になる. また, 同属の数種については, 交尾器や腹面の写真を加え, さらに同定を確実なものとしている. 最後には日本産種の最新のリストと文献一覧が掲載され, タイプ標本の収蔵も付記されており, 後進の研究におおいに役立つ内容となっている.

これまでの図鑑では, 小型種の同定は, 比較標本を収集していない限り, ほぼ不可能に近い状態にあった. この図鑑により, 誰もが比較的容易にタマムシを同定できるようになった. 生物多様性解明の一つの業績として, 本書が今後果たす役割はきわめて大きいだろう.

著者の一人である福富氏が, あとがきで「まだだれも知らない大型のナカボソタマムシや, キラキラ輝くナガタマムシの新種などもあるはずである」と述べているが, カミキリに比べた専門の愛好家の少なさや, 既知の寄主植物の種数の少なさを考えると, まさにその通りだと思う. 著者らの熱い「タマムシ愛」が詰まった本書をきっかけとして, 小型種の存在により手を出しにくかったタマムシの愛好者が増えることは間違いなく, そのことはきっと新たな発見につながるだろう. 採集名人である両著者を仰天させるような新種を採集することも, 本書を読みこんでおけば, 決して絵空事ではないと思われる. その点で本書は夢の詰まった一冊ともいえるだろう.

最後に, 世間一般で「たまむし」といえば粉うことなく種としてのタマムシのことである. 研究者の目線で本種の和名が「ヤマトタマムシ」とされることもあったが, タマムシ図鑑の標準ともなりうる本書で改めてタマムシとされたのも, 今回大変うれしいことであった.

(丸山宗利 九州大学総合研究博物館)